

八代神社の神宝の中に金銅製の頭椎（かぶつち）太刀と呼ばれる刀が2組あります。この太刀は7世紀代（1、400年前）のものと考えられ、柄頭が丸く、中央に小穴が空いているのが特徴です。このような刀は日本各地で古墳（こふん）と呼ばれる当時の支配者の墓から出土する場合があります。しかも、前方後円墳のような大きな古墳から出土しています。県内でも、明和町の坂本1号墳といったその地域を代表する古墳から出土しています。

しかし、現在、神島で古墳は確認されていません。昔に存在したことも考えられますが、小さな島であること、周辺の答志島や菅島にはたくさん古墳があることを考えると、「聖なる島」としてむしろ造られなかったと考えるのが自然なのではないでしょうか。また、前回お話しした画文帯神獸鏡（がもんたいしんじゅうきょう）も明和町にある古墳から出土していることは注目されます。明和町には、古代に齋宮（さいくう）と呼ばれる天皇家から派遣され、伊勢神宮に仕えた皇女の宮がありました。この齋宮のある地域と同じような遺物が神島にも残されていることは、この



八代神社に残る「頭椎太刀」。丸い柄頭が特徴です

神島八代神社神宝の謎②  
なぜ神島にあるの？  
金銅製の太刀

鳥羽のお宝  
再発見!



vol.12

教育委員会生涯学習課  
☎ 1268

島は時の天皇家にとつて東日本への起点として崇められていたのではないのでしょうか。したがって、この太刀は、古墳から出たものではなく、島にお供えされたものだと考えられます。神島に限らず、鳥羽には古代の天皇家と大きな関わりがあったと想像される和歌や、場所がたくさんあります。これについては機会を改めて紹介しますが、鳥羽は伊勢神宮と並び重要な地域として認識されてきた場所なのです。今後、発掘調査などで、とんでもないお宝が発見される可能性を鳥羽は秘めているといえます。

また、滝を登っていくコイのようにたくましく、頑張るこどもになってほしいとこいのぼりを立てたりします。いつの時代も、お父さんやお母さん、周りの大人たちがこどもの健やかな成長を心から願い、寄せる思いはひとつです。さて、あそびの広場「だっこ」は、こどもやお父さん、お母さん、おうちのかたがお互いの「輪」を広げたり、育児の不安や悩み、子育てに関する情報を交換の場として「ほつ」としたひとときを過ごす情報交換の場として「ほつ」としたひとときを過ごしてもらう場所です。みなさんと一緒に子育て、そして親育ちをしましょう。「だっこ」では、子育て講座や人形劇、季節の行事なども計画しています。ぜひ、遊びに来てください。

また、滝を登っていくコイのようにたくましく、頑張るこどもになってほしいとこいのぼりを立てたりします。

利用できる日  
火曜日・水曜日・金曜日

利用できる時間  
午前9時～11時30分  
午後1時～3時30分

対象 就学前のお子さんとその保護者

\*「だっこ便り」は各保育所、幼稚園、市役所（子育て支援室）、図書館、保健福祉センターひだまりなどに置いてあります。どうぞご覧ください。

やねよりた〜か〜い  
こいのぼり〜

5月5日は子供の日。

この端午の節句には、強く元気なこどもに育つようにと願いを込めて、クマと相撲をとった金太郎や、病気を追い払うといわれるかぶとや武者人形を飾ります。

みんな子育て



子育て広場

だっこでほつと

遊びに来てね

vol.9

子育て支援センター

☎・FAX ☎ 7221